

助成金情報

他にも多くの助成金やセミナーがあります。
詳しくは、メイトム宗像のホームページ⇒その他リンク一覧をご覧ください。
窓口での相談も受け付けています。

メイトム宗像

検索

助成金 自然・歴史環境分野

- 公益信託 大成建設自然・歴史環境基金 2015年度助成金
- 【対象】国内ならびに開発途上国の自然・歴史環境の保全活用にかかわる活動や研究
- 【申込締切】7月31日（金）※必着
- 【助成金額】総額：1,500万円程度、助成件数：30件程度
- 【問合せ】みずほ信託銀行株式会社 個人業務部 福祉信託係『公益信託 大成建設自然・歴史環境基金』事務局
TEL：03-3274-9210 FAX：03-3274-9504

助成金 環境保全、人権・平和、国際協力・交流などの分野

- 大竹財団助成金
- 【対象】公益、社会問題の解決に取りくむ事業を行い、日本国内に事務所や連絡先をもつNPO、任意の市民団体、ボランティアグループ、個人
- 【申込締切】通年
- 【助成金額】1件あたりの上限額50万円
- 【問合せ】一般財団法人 大竹財団事務局
TEL：03-3272-3900 FAX：03-3274-1707

助成金 保健・医療・福祉、学術・文化・芸術・スポーツ、環境保全分野

- 平成28年度NFD one leaf fund
- 【対象】①植物保護活動 ②自然保護・環境保全の調査・研究 ③花や植物を通じた環境福祉活動
- 【申込締切】8月31日（月）※当日消印有効
- 【助成金額】1件あたりの上限額80万円
- 【問合せ】公益社団法人 日本フラワーデザイナー協会
TEL：03-5420-8741

助成金 環境保全分野

- イオン環境財団2015年度第25回環境活動助成
- 【対象】開発途上国および日本国内で、活動分野に該当する事業かつフィールドワークを伴う活動
- 【申込締切】8月20日（木）※必着
- 【助成金額】総額1億円1件あたりの上限額なし
- 【問合せ】公益財団法人 イオン環境財団
TEL：043-212-6022 FAX：043-212-6815

宗像市

人づくりでまちづくり・文化芸術活動・元気な島づくり 事業補助金 第2次募集!!

市民活動団体や
ボランティア活動団体を
応援します!

補助対象 事業

- 8月1日（土）から平成28年3月31日（木）までの間に実施する次の①から③の事業
- ①人づくりでまちづくり事業＝子育て、環境、福祉など、人づくりやまちづくりにつながる活動
 - ②文化芸術活動事業＝文化芸術をまちづくりに活用する活動、地域伝統文化の継承、文化の担い手を育成する活動など
 - ③元気な島づくり事業＝大島・地島の島民と島外の人との交流を図る活動、島の振興を目的とした活動など

応募要件

- ・市内に活動拠点をもち、3人以上で構成する市民活動団体やボランティア活動団体
- ・大学や短期大学、高等学校などに所属して調査・研究する3人以上のグループ

申請期間

7月7日（火）～
7月30日（木）
午後5時必着

問合せ

人づくりでまちづくり事業

市民活動・NPOボランティアセンター
（メイトム宗像）
TEL：0940-36-0311

文化芸術活動事業

宗像市文化スポーツ課
TEL：0940-36-1540

元気な島づくり事業

宗像市元気な島づくり課 推進係
TEL：0940-36-1725

コーディネートルームのこう使いたいを募集します!

メイトム宗像内、市民活動・NPOボランティアセンター前のコーディネート打合せスペース（フリースペース）を市民活動する人たちが気軽に集え、コミュニケーションができる場にしたいと考えています。皆さんのアイデアをアイデアBOX（コーディネートルーム設置）もしくは、むなかた市民フォーラムまでお知らせください。

フォーラム
通信

皆さんからの 情報を募集!!

市民活動のお知らせや活動の様子などをお寄せください。
munakata@mcforum.jp 「むなかた市民フォーラム」まで

「ふらぐ」は、むなかた市民フォーラムが宗像市市民サービス協働化提案制度において、宗像市と協働で編集・発行しています。

発行/宗像市市民活動・NPOボランティアセンター
住所/福岡県宗像市久原180 メイトム宗像
電話/0940(36)0311 FAX/0940(37)4101

編集/むなかた市民フォーラム
URL/ <http://kouryuukan.com>
E-mail/meitomu@city.munakata.fukuoka.jp

窓口時間/8:30～17:00
休日/土・日・祝日

むなかた NPO ボランティア 情報紙

テーマ

「コミュニケーション」

情報共有の
方法を考える

ふらぐ

No. 8

2015年7月発行

「ふらぐ」は、NPO・ボランティア・市民活動の実践者を対象とした情報紙として、活動に役立つ情報をお伝えします。
今回は「コミュニケーション」がテーマ。コミュニケーションの大切さや情報共有について考えてみましょう。

専用ホームページが 情報の交差点

「鎮国寺花まつり」や「宗像大社西日本菊花大会」の定期ガイドの他、一般ガイドを合わせると年間1万人に観光案内を行っている「宗像歴史観光ボランティアの会」。年々会員が増える中、会の結束を強める秘訣について代表の福井敏晴さんと役員の皆さんに話を聞きました。



宗像歴史観光 ボランティアの会

1 全員集合は月1回なのに...

宗像歴史観光ボランティアガイド養成講座を受講した67人の会員が活動しています。1～9期の受講者ほとんどが入会し、活動を続けています。今年の養成講座は10年目を迎えます。ガイドは一つの依頼につき1～3人くらいで対応します。全員が顔を合わせるのは月1回の定例会議のみ。しかも1時間ほどです。なのになぜここまで会がまとまっているのか。その秘密は会員専用ホームページにあります。

会員専用ホームページは、操作を簡単にし、会のお知らせや出欠確認など12項目で構成されています。「会の年間スケジュールやガイドスケジュールがわかるので、自分の活動計画も立てやすくなっています。掲示板には、各地の歴史散策の体験談などを自由に掲載でき好評です。私も一日に一回は会員ホームページを開き、時々投稿もします。」と小田幹夫さん。パソコンの使い方を教えて欲しい人がいれば、パソコン教室も行います。



会員専用ホームページ

2 会の潤滑油は心くばり

しくみをつくれれば良いというものではありません。ホームページの閲覧状況を確認したり、会員にアンケートをとったり、ホームページ利用の浸透度に気を配るからこそうまく運用できています。「でもパソコンを使えないといけないわけではないんです。無理強いはいらない。これがコンセプトです。」と遠藤隆さん。年に14回行う研修会も、スキルアップを求める会員の声に応えました。会への入り口が養成講座だけあって、みんな勉強熱心で柔軟に活動をしています。常に活動しやすいように考え、事業ごとに役員と担当者も決めています。役割がわかると動きが見え、役員と会員のやり取りもスムーズです。

組織を整え、役割を分担し、見える化すると会員が声を出しやすくなる。ガイドと同じく会員への心くばりも光ります。



取材の様子

問合せ 宗像歴史観光ボランティアの会
TEL：0940-62-3811（宗像観光情報コーナー）

ちょっとお役立ち情報

コミュニケーション力がアップする 情報共有ツール

Google カレンダー 予定を共有



「Google カレンダー」はインターネット上にあるカレンダーです。団体のイベントや会議の予定、スタッフの予定などを共有することができます。

メンバーで一つのカレンダーに、団体のイベントや会議の予定を入力し、スタッフの動きを共有することができます。

Google アカウントを取得（無料）すると個人のスケジュール帳になります。その上に団体のスケジュールも表示することができ、便利です。

Drop box データを共有



「Drop box」はインターネット上にある引き出しのようなものです。あけるにはIDとパスワードが必要です。決まった人しか見れないので安心です。

複数人でプロジェクトを進めるときに、データを共有し、編集やダウンロードができます。

全員にメールを送る手間が省けます。

まとめ

今回取り上げた情報共有ツール以外にも様々なものがあります。一度立ち止まり、団体内の情報共有の方法を考えてみることで、今後の活動がより円滑になるかもしれません。紹介した情報共有ツールの詳細や使い方などを詳しく知りたい方は、メイトム宗像にある市民活動・NPOボランティアセンターへご相談ください。

予約・問合せ 市民活動・NPOボランティアセンター
TEL：0940-36-0311

情報共有ツールを身につける

情報共有するには、直接会って話すことに勝るものはありません。しかし、現代はインターネットを活用し、いろんな方法で情報共有ができる時代です。今回は団体の困った！を解決するツールをご紹介します。

メッセージ 簡単に情報共有



Facebook のメッセージ機能である「メッセージ」は、簡単にメッセージやデータの送受信ができます。また複数人でグループを設定し使うことも可能です。

プロジェクト毎にグループを設定し、その進捗状況などの報告や情報共有に使用できます。

日程調整や簡単な事項の連絡に向いています。一度の送信でメンバーに知らせることができ、既読の確認もできます。

Skype どこでも会議



「Skype」を使えば、どこでも簡単にコミュニケーションをとることができます。複数人で話すことも可能で会議の手段として使用する場合があります。

インターネットに接続したカメラ付のパソコンやタブレットがあれば、テレビ電話ができます。同時に複数人と話をすることもでき、移動の必要がなく顔を合わせることができます。

安い価格で世界中の固定電話に掛けることができます。

これも必見!!

広報相談が利用できます

チラシやパンフレットの制作、インターネットを活用したPRまで、専門のスタッフに相談できます。

広報相談日

7/18(土) 8/29(土) 9/19(土)
10時～ 11時～ 13時～ 14時～ 15時～ 16時～
●個別相談（1団体約1時間） ●予約制 ●無料



日本一面白い会社 “カヤック” から学ぶ組織戦略のススメ

日本でも有数の面白い取り組みをしている会社が鎌倉にある。会社名は「面白法人カヤック」。「面白法人」という新しい屋号はこれまでの常識を超越している。枠にとらわれない自由な発想で常に世の中をあとと驚かせ続けるカヤック。そのカヤックの組織づくりのヒケツとは一体・・・？

社員に浸透する 「日本一」の経営理念

グーグル、ヤフー！で「経営理念」というワードで検索すると「カヤック」のページがトップに表示される。日本で一番検索されている経営理念なのである。カヤックの経営理念は「つくる人を増やす」といったってシンプル。あまりに奇抜すぎて、解釈がせまくなってしまいう言葉より「一言で、誰もが覚えることができる、法人の道しるべになる言葉」にこだわって作られたものだ。

カヤックが経営理念を大事にするのは、経営理念が法人の存在理由であると考えからだ。年に2回特別な機会も用意されている。

その名も「ぜんいん社長合宿」。全社員が業務から離れて理念に沿った共通のテーマについて考える場で、会社設立当初から続けているカヤックの大きな行事のひとつ。合宿には全社員200人が参加するため、社内の結束にもつながっている。頭の中に根付く短くシンプルな言葉で明文化され、なおかつ徹底的に考える場があるからこそ、カヤックの経営理念は社員に浸透しているのだ。しかも、理念の浸透は社内だけでなくとどまらない。ホームページでも詳しく経営理念について記されている。

「私たちはホームページなどのウェブ媒体を通じて、まだ見ぬ新しい人たちともコミュニケーションをとっているんです」と広報部ディレクターの松原さん。会社の価値観を広く社会に公開することで、その価値観に賛同する人材が集まってくる。そのため、新入社員と会社の方針のズレは限りなく少ない。

経営理念の浸透が、社内のコミュニケーションを促し、組織の結束力を高め、組織を強くしているのだ。

コミュニケーションを促す 組織戦略

カヤックは社員プロフィールやサイコロ給ランキング、仕事実績など包み隠さず公開している。これらの情報は誰でも閲覧でき、どんな人が働いているかを知ることが可能だ。何より驚きなのは退職者の情報を公開しているところ。退職理由や転職先までオープンにしている。

社内での取り組みも非常にユニーク。社員同士で評価する「ぜんいん評価」や気の利いた言葉を贈る「スマイル給」などは、社員のコミュニケーションを促進させる。それを支える社員専用サイト「ミンボー」の存在も大きい。

きわめつけは、社員の家族向けに発行する家族報「カゾック」や仕事現場を観るための「仕事参観日」などのユニークな取り組み。カヤックは社員だけでなく、その周りにいる人たちが大事にしている。

コミュニケーションをつくる「ブレインストーミング」

「コミュニケーションの根底にあるのはブレインストーミングです。」と長年カヤックを見続けてきた松原さんは語る。カヤックの社内では毎日いたるところで社員同士がアイデアを出し合っているそうだ。アイデアは具体的なものもあれば、バツと口からでた思いつきレベルのものまで様々。カヤックでは、年齢肩書きにこだわらずアイデアを出し合うことが社内文化として定着している。社内中央には、自由に利用できる円形テーブルやホワイトボードなどが設置しており、気軽にアイデアを出せる環境がある。出たアイデアについては、頭ごなしに否定しないというのがルール。

INTERVIEW

広報部ディレクター
松原 佳代 さん

カヤック文化のひとつ漫画名刺。ホームページの社員紹介も漫画風。憧れの漫画家に自分の似顔絵を描いてもらい、名刺にする社内制度もユニーク。



▼ つながりをつくるユニークな取り組み ▼

ぜんいん社長合宿

全社員が業務から離れて、カヤックの社長になったつもりで会社のことを考えるための合宿。カヤックが重視する経営理念を多忙な日々の中で考えるのはなかなかできない。年に2回真剣に見つめ直す場となっている。

ぜんいん評価

月給を決めるための直接的な評価ではなく、成長のために社員同士で指摘し合う制度。自己評価や他己評価、新卒から代表取締役まで全社員分がすべて公開されている。

スマイル給

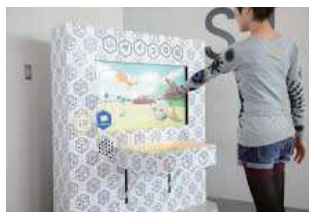
毎月、社員同士がよいところを見つけて気の利いたコトバにして贈る制度がスマイル給。スマイル給を送る相手は毎月ランダムに選ばれる。誰がどんなコトバを贈ったかも公開されている。

ライバル指名制度

ある社員が他の社員をライバルとして指名し、半年後に全社員の投票によって勝敗を決する制度。勝者には3万9千円（サンキュー）が授与される。若手社員を中心に年5組程度がチャレンジしている。

サイコロ給

毎月給料日前に全社員がサイコロを振って月給×サイコロの出た目%が、給与にプラスαされる制度。「面白く働くことに比べたら給料はサイコロで決める程度でいいよね」というメッセージがあるそう。



一振入魂のサイコロ給専用マシン



本社 鎌倉本社 支社 ヨコハマ展望オフィス
1998年に合資会社カヤック設立 2005年株式会社カヤック設立
社員数 200人 事業内容 日本的面白コンテンツ事業